



堀場製作所創業者で、2015年に亡くなられたまで30年以上にわたって起業家を支援してきた堀場雅夫さんが当社に来てこんな話をしたことがある。

「アングロサクソン系の

米国人の50%が持っているのに、日本人は2%しか持っていない遺伝子がある。それは『新規性追求遺伝子』と言われるものだ」

堀場さんによると、この遺伝子を持っていると、課題に直面するとチャレンジ

インターウォーズ社長

吉井 信隆



1979年リクルート(現リクルートホールディングス)入社。首都圏営業部長などを経て95年にインキュベーション事業のインターウォーズを設立、社長に就く。日本ニュービジネス協議会連合会副会長。

したくなるのだぞうだ。米事業を立ち上げるといふ形でスタートアップ(ベン)で起きてきた。

チャー)企業が数多く成功 当社は多くの事業のインキュベーション(ふ化)に、日本ではなかなかうまく キュベーション(ふ化)に、日本ではなかなかうまく 携わってきた。企業内起業 由があるというのが堀場さん 家を育成する「イントレパ

企業内起業の成功条件

3つの共通点がある。
1つ目は、当事者意識を持つイントレプレナーと自らの責任で投資判断する経営陣、リスクを共有しサポートするプロインキュベーターの「三位一体」の起業チームの存在だ。
2つ目は、起業する仕事場を自分の会社から離れたところに置くことだ。当社 出身企業から離れた場所になれば顧客に目が向く。 起業家は次から次へと意思決定をしなければならぬ。起業家が孤独を感じるの、そうした決断の瞬間もある。イントレプレナーも自社から離れた場所起業すれば、孤独に耐え得るだけの胆力を鍛えられる。 3つ目がパートナーだ。 事業を起せば必ずピンチに出会う。失敗を恐れぬ勇

んの見立てだった。さらに「出島インキュベーター塾」は18年で11年目を迎える。多種多様な企業から1千を超える人数の規事業を分離独立させるやり方の方が日本ではうまくいく」とも語っていた。 材が参加、様々な事業を生み出した。そのなかには吉野家ホールディングスによる介護食やプラスの社内カ日本におけるイノベーション パニーによる介護・福祉 ンは、企業内起業家(イントレプレナー)が社内の経営資源を活用して次世代の 企業内起業の成功には、 に応えようとする。だが、 になる。